

## 第21回 まちづくりウォーキング 宮前区まちづくり協議会ウォーキング部会

4月19日第21回まちづくりウォーキングが実行された。「春の菅生・水沢地区を歩こう！」が今回のテーマである。渡辺部会長の挨拶のあと、13時14分、集合地菅生分館を出発した。参加者は17人と事務局・委員である。

先ずは長安寺。ここは杉田玄白(解体新書・蘭学事始で知られる)・間宮林蔵(間宮海峡を発見、シーボルト事件を幕府に密告した)の所縁の寺として知られる。外からそつと伺うのみで次に向かう。ゆるゆると歩けば平瀬川に至る。この川は、以前は生活排水などで汚れて大変であったらしい。住民の要望、市の協力などがあって今の美観を誇るに至っていると、当時の様子をまちづくり協議会委員の松井さんが語ってくれた。折々の清掃があり、鮎の放流があり、樹々の植樹があり、今があると。朴の木の先に白くゆつたりとした花を見られたのは懐かしかった。らんまんも咲く八重桜の中に御衣黄があった。名に恥じぬ奥深い美しさである。淡い緑と黄色の混じった色合い、そろそろ満開だろうか、紅色の線が表れている。



少し階段を登ると菅生第4公園に出た。小さな花々が咲き乱れている。花とみどりの部会の協力で出来た花壇である。きれいな花壇が出来ると近くの方々も雑草を抜いたりゴミを片付けたりしてくれるのだそうだ。うれしい話である。まもなく「菅生ヶ丘特別緑地保全地区」に出た。ここは公園ではない！トイレも水道もなかったのを、地元の方が清掃や植栽をする為に水道だけは引いてもらったとか。おかげで私達は今盛りの牡丹、藤、山吹きを見られた。足元にはオオイヌノフグリ？ネモフィラかな？地面を覆っていた。

・瓶に挿す藤の花房短ければ畳の上に届かざりけり〈子規〉

病床の子規は長い花房を恋うたのだろうか。この歌の様になるには藤はあと何年かかるのだろうか、半世紀も昔、高校の先生の話し。



道すがら社会福祉法人はぐるまの会「はぐるま稗原農園」に寄る。以前来た時感じたが、ここの方々の笑顔に救われる。最初に訪れた時から8年程経た。まわりにも大きな建物ができたり、園の方々の髪にも白いものが混じってきた。のらぼう菜が今、旬だそう。



さて最後の「水沢の森」に行こう。足元まで春である。あちこちに筍が首を出している。委員の一人宮地さんは何度もここに足を運びその美観にカメラを向けている。今日の緑もいいが秋のすすき原が美しいので是非おいで下さいとの事。ゆっくりと足を運ばさずが水沢の森である。ここに分水嶺があった。「源頭」と記され、「谷の最上部、尾根に到達する場所、水が湧く所」とある。ここから早瀬川、平瀬川、矢上川に流れるとのことである。湧水に手を入れて「冷たい!!」という声。園内をヒョコヒョコとカモが歩くのは愛嬌である。菅生緑地は西地区と東地区に分かれ、こちらが西地区、高台のベンチでアンケートを記入して戴く。通りを渡って東地区に入ると広い公園となっており桜も美しい。



今回の行程は本当に花と緑が清やかだった。

・みどり美し八重桜美し藤も美し歩く人らの顔の和める  
公園を出て解散、皆さんお疲れ様でした。

(河又記)